

行政区長懇談会(長岡地区) 要旨

- ◆日時 令和8年6月15日(月) 17時30分～18時20分
- ◆場所 長岡公民館
- ◆参加者 行政区長 7名
紫波町 町長、副町長、教育長、生活部長、産業部長、建設部長、企画総務部長、
教育部長、総務課長、地域づくり課長
(役場会場) 長寿介護課長、健康福祉課長、農政課長、商工観光課長、土木課長、
都市計画課長、財政課長、税務課長、消防防災課長、学校教育課長、生涯学習課長、こども課長、学校給食センター所長、農業委員会事務局長

1 開会

2 町長挨拶

普段からしわネットの配布や、その他配布物、そして地域の困りごとなど、様々ご対応いただきまして、心から感謝を申し上げます。今日は三役、部長以下職員が地域の皆さんの出来事困りごとをお聞きしに参りました。

忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

3 町からの情報提供

- ・ツキノワグマ出没への注意喚起について(環境課)
- ・空き家の聞き取り調査について(都市計画課)
- ・統計調査員の推薦について(総務課)

<行政区長>

統計調査員の地区ごとの人数は。

(総務課長)

地区の人数によって人数の割り当てがある。本日名簿を持ってきているので、懇談会が終わったらお伝えする。

4 懇談

<行政区長>

総合運動公園のところに屋根をかけたところがあるが、何のためか。いくらかかったのか。

(生涯学習課長)

運動公園に新しくできたスポーツ交流施設で、ワイズマンスポーツベース紫波という名前で動いている。これまで陸上競技場のスタンドだったものが老朽化していたため、建て

替えてトレーニングルームなどを設置、一部をグルージャ盛岡のクラブハウスとして建設したもの。トレーニングルームは一般の方も利用でき、月に1000件ほど利用いただいている。事業費は約3億8900万円。

<行政区長>

ツキノワグマについて、ラインが毎日のように流れてくるが、情報を流すだけでよいのか。しっかりと個体管理をしていかなければ町民を守れないのではないかと。また、シカによる農作物被害も大きい。積極的な捕獲、個体数を減らす努力が必要ではないか。

(産業部長)

ツキノワグマの個体数管理について、昨年1年かけて県で個体数の測定をしたところ、約5200頭、2021年の調査から1500頭ほど増えており、1500頭を捕獲できるように県が計画を立てているところ。それが出次第、町も捕獲を増やしていきたいと考えている。鹿についても、昨年町で500頭ほど捕獲している。捕獲数は年々伸ばしているが、まだまだ被害は減っていないという現状。今年もさらに捕獲できるよう皆さんと協力しながら進めていきたい。

<行政区長>

クマについて捕獲という話があったが、捕獲したものはどうしているのか。

(産業部長)

いろいろと条件がありチラシには捕獲という表現しかしていないが、町ではクマはここ5年程で捕獲したものはすべて駆除捕殺している。また、駆除捕殺した頭数については先月から月末にラインで、どこの地区何頭という形でお知らせするようにしている。

<行政区長>

町の防災計画を見たが、東学園が避難場所となっているが水没地域ではないか。あと、古館地区の二日町の以前に大雨で水をかぶった地域で今も家がどんどん建っているが、何か対策はされているのか。町の方でよく考えて対策をとっていかないと、また同様な被害が出るのではないかと。

(消防防災課長)

東学園について、水没地域については基本的に避難場所に指定しないこととしているが、河東地区で相当の人数を収容できる施設が他にあまりないこともあり、現在指定をしている。地形を変えることはなかなか難しいため、垂直避難ということで、体育館だけでなく、校舎の二階なども水害に対しては避難ができるということで考えている。

古館地区について、確かに平成25年の大雨の際に水没した地域である。これまでの水害について、最近気候が変わってきており、その時々で状況が異なるが、必要な部分については避難所を適切に開設してまいりたい。また、必ず避難所、ということではなく、その時の状況に応じて、ご自身で安全なところをみつけて避難することが大事。通常の

避難所について把握していただいて、有事の際には避難の選択肢の一つとして考えていただければと思う。

(建設部長)

ご覧いただいているのは北上川の氾濫時のハザードマップかと思う。現在国土交通省では近年の気象状況を踏まえて、北上川の整備計画を改定して、北上川上流のダムの再生事業を進めている。これから四十四田ダムのかさ上げをして、近年の豪雨災害に備えたいということで事業を進めている。

<行政区長>

最近他県ナンバーの外国人と思われる人が出入りをしており、空き家の辺りも見ているようだ。聞いてみると、古い農機具や廃棄するような金属類はないかと。不安に感じるが、対応できるものか。

(消防防災課長)

同様の話が町内でいろいろ増えているということは、こちらも認識をしている。その行動自体についてこちらから積極的に規制するのはなかなか難しいが、警察と情報交換をしながら対応を考えていきたい。

<行政区長>

空き家対策の話があったが、空き家予備軍というか、高齢者の一人暮らしへの対策も必要ではないかと思う。昨年私の行政区で高齢者の孤独死があった。月2回の区長の配布物の際に安否確認をしていたが、お盆の忙しい時期を挟んでしまったために夏に1カ月ほどの空白が生じてしまい、9月に入ってから発見された。健康福祉課に尽力いただいて、町の方で引き取り、葬儀まで許可してもらい納骨までこぎつけた。高齢者の一人暮らしについてはなかなかプライベートな問題が絡むので、地域の一員であっても立ち入ることが難しい。もしもの場合に備えて、行政の方ではどのように対応を考えているのか。

(長寿介護課長)

高齢者の一人暮らし、それから孤独死の問題については、近年件数が多くなっており、対策が必要であると認識している。現在は実態として、区長さんや民生児童委員さん、見守りネットワーク事業に協力いただいている郵便局や宅配事業者の方々と連携して、独居の方を見守れるようにという工夫は重ねている。一方で、ご指摘のあったとおりプライベートということもあるため、行政を含めて周囲の人がなかなか踏み込めないという実態もある。ご家族の方がいれば、その方が見守れるような仕組みを整えつつ、地域の見守りネットワークの方に情報がうまく共有されるような仕組みを考えていきたいと考えているが、現在研究を始めた段階であり、具体的なものはこれから、という状況である。

(建設部長)

空き家対策の面から。おっしゃるとおり、空き家になってからの対策では少し手遅れである。使われている方が元気なうちに、今後どうしようかということを考えることがとても大事だと思っており、啓発活動にも力を入れていきたい。

<行政区長>

長岡地区の行政区は今のままでいいのか、人口がどんどん少なくなっており、行政区として体をなさなくなってしまうのではないかと考えている。今後行政区そのものを見直していかなければならなくなるのではないかと。

(総務課長)

町としても、行政区の困りごとの変化、人口減少による地域の様態の変化などの社会情勢をとらえており、行政区のあり方を再検討したいということで、地域協働研究として岩手県立大学の方と協力して今年度調査を行っている。ヒアリングなど、区長の皆様にもぜひご協力をいただきたい。

<行政区長>

先ほど一人暮らしの話があったが、私の行政区でも同じような問題がある。困るのは、様子を見に行こうにも、構わないでくれと言われる。煩わしいと。女性の方が広報紙をもっていった際に怖い思いをしたという問題もある。見守りはしたいと思っているが、相手から拒絶されてしまえば、どこまで何を必要があるのか、様々な問題がある。この問題について、みんなで考えてもらいたいと思う。

(長寿介護課長)

おっしゃるとおり、構わないでくれ、放っておいてくれという方もいらっしゃる。直接的に関わるというより、少し距離を置いた形で見守りつつ、その方の生活リズムなどが乱れた場合に分かるような仕組みを考えていきたいと考えている。また、独居の高齢者で実際にお金の動きが悪くなったり、認知症が進んだりした方については、区長さんや民生児童委員さんから情報を頂き、個別に必要なサービスに繋がられるよう努力はしている。ただ、やはり家族が勧めても本人が強く拒否するというケースも増えている。引き続き皆様のご意見をいただきながら、考えてまいりたい。

<行政区長>

私の地域で空き家になったところなどに4件ほど転入者があった。新しく転入してきた方と、地域の中でうまくコミュニケーションが取れない。社会福祉協議会会費をもらいにいっても、そんなものは知らないと言われてしまう。そういった問題も起きてくるので、問題提起しておきたい。

(地域づくり課長)

近年、農村地域の方に、こういった景観、環境がいいということで移り住む方が増えてきている。一方で、地域の方々からは、新しい方に声をかけるとあまりいい反応が返って

こない、という場合も多いと聞く。地域のコミュニティーについて、これをすればすぐ解決する、という特効薬的なものはなかなかないが、例えば防災の面からアプローチしてみる、地域の安全と一緒に考える、といったところから少しずつお互いの信頼関係を築いていくことが必要ではないかと考える。恐らくすぐに解決というのは難しいと思うが、少しずつ距離を近づけて、お互いに住みやすい地域を作っていければと思っているので、役場としてもできることを考えていきながら、皆さんと一緒に住みやすい地域を作ってまいりたいと思っている。

5 町長総括

- ・スポーツ交流施設について、アスリートのみならず、健康増進したい人たちもスポーツジムのような感覚で使っていただける施設となっているので、一度覗いてみてほしい。

- ・ツキノワグマの個数管理。5200頭というのは私たちも驚く数字だった。これまで共生ということも言っていたが、それも難しい状況。県内の市町の集まりや町村会の集まりでも情報共有をしているところ。紫波町だけ頑張っても、山は繋がっているのも、全体として一緒に対策を考えて、連携して進めていこうということで進めている。鹿も同様。

- ・ハザードマップについて、そのとおり色分けされると不安になるが、災害の種類、状況によっても避難の仕方が変わってくる。町としても、都度対応していきたい。

- ・防犯に関する不安、実際に被害があったという話はまだ聞いていないが、困ったときは警察や町消防防災課にお知らせいただきたい。

- ・高齢者の一人暮らし、孤独死について。町としては、見守りネットワーク、企業さんなどとも組んでいるし、なにより地域の皆さんとの共助の部分で、解決できるところ、見守っていきたい。

- ・行政区の見直しについて、行政区長制度の見直しを今進めているが、行政区そのものの区割の見直しは、行政からこうしてくださいとは言わない。地域の方々と話し合っ、みなさんの妥協点を見つけていけるよう、役場としても地域と一緒に考えていければと思う。